

憑靈信仰論



[憑靈信仰論 下载链接1](#)

著者:小松 和彦

出版者:講談社

出版时间:1994-3-4

装帧:14.6 x 10.6 x 1.8 cm

isbn:9784061591158

内容（「BOOK」データベースより）

「憑く」という語の本来の意味は、事物としてのものにもともと内在する精霊や、異界の神靈などが、別の事物としてのものに乗り移ることを意味していた。本書は、こうした憑依現象を手懸りにして、狐憑き、犬神憑き、山姥、式神、護法、付喪神など、人間のもつ邪惡な精神領域へと踏み込み、憑依という宗教現象の概念と行為の体系を介して、日本人の闇の歴史の中にうごめく情念の世界を明らかにした好著。

作者介绍:

1947年東京都生まれ。埼玉大学教養学部卒業。東京都立大学大学院博士課程修了。

現在、大阪大学文学部助教授。専攻は文化人類学・民俗学。著書は『異人論』『悪霊論』『神々の精神史』『説話の宇宙』『神隠し』『日本の呪い』『鬼がつくった国・日本』(共著)など多数。

目录: 1 「憑きもの」と民俗社会

—聖痕としての家筋と富の移動—

- 1.はじめに
- 2.民俗学的研究の若干の問題点

3.「つき」の基礎的概念

4.「つき」と「憑依」

5.聖痕としてみた「憑きもの」

6.聖性(異常性)の形象化としての「憑きもの」

7.「憑きものの筋」と「限定された富」

8.総括と今後の問題

2.説明体系としての「憑きもの」

—病気・家の盛衰・民間宗教者—

1.はじめに

2.高知県物部村の事例

3.説明体系としての信仰

1.病気の説明体系と憑霊

2.家の盛衰と神霊

3.民間の宗教的職能者その使役霊

4.まとめ

4.《呪咀》あるいは妖術と邪術

—「いざなぎ流」の因縁調伏・生靈憑き・犬神憑き

1.はじめに

2.「障り」の病

3.因縁調伏

4.生靈憑き

5.犬神憑き

6.式王子と式法

7.若干の考察とまとめ

4.式神と呪い

—いざなぎ流陰陽道と古代陰陽道

1.はじめに

2.土佐のいざなぎ流陰陽道

3.「呪咀」のための祭文と儀礼

4.いざなぎ流の「式神」

5.呪禁道と陰陽道の伝来

6.陰陽師の活躍

7.陰陽道の「呪い」と「式神」

5.護法信仰論覚書

—治療儀礼における「物怪」と「護法」—

1.はじめに

2.『枕草紙』からの事例

3.調伏儀礼

4.「護法」—験者の呪力の形象

5.憑霊としての「物怪」と「護法」

6.「憑坐」と「夢」

6.山姥をめぐって

—新しい妖怪論に向けて—

1.柳田国男の妖怪論

2.妖怪—祀られぬ神々

- 3. 《神》と《鬼》
- 4. 土佐の「山女郎」
- 5. 「山女郎」の両義性
- 6. 昔話のなかの「山姥」
- • • • • (收起)

[憑靈信仰論 下載链接1](#)

标签

小松和彦

我就是为了这些学日语的

神秘学

民俗学

日本

文化人類学

人文

评论

依然是作者的论文集，围绕“憑靈信仰、憑き物”的不同时期的八篇论文，涉及憑靈的界定（在日本的民俗语境下对人类学的憑靈概念进行了更广阔的界定），憑き物背后存在的民俗社会的深层思考方式（封闭社会下财富的有限性），憑き物作为民间说明体系的三个层面（疾病 家业 盛衰）

祈祷师的灵力来源），现今仍存在的イザナギ流与古代阴阳道的关系，护法信仰的研究，以及妖怪研究的尝试（山姥和付丧神两篇），早期的论文有很明显人类学痕迹，在用人类学解读繁杂的民俗事象以探求深层的文化思考，小松可谓先驱，给人类学和民俗学搭桥的存在，尤其第一篇奠定研究基调的论文“憑き物と民俗社会”居然是25岁时写的

[憑靈信仰論 下載链接1](#)

书评

[憑靈信仰論 下載链接1](#)